

流芳錄

首卷

家傳

		二	和
	一	四	書
	九	一	門
一	四	二	
五	架	五	類
冊		號	

第 三 百 一 十 九 卷

庫	文	閣	內
五	三		和
九	四		書
函	一		
三	五	五	
架	冊	號	類

和 書 三 四 一

內閣文庫	
番號	和 34125
冊數	15 (1)
函號	159 4

159-4





流芳録例言
 國家昇平の久き振古未嘗て少なき所あり
 東照大神君播磨正の芳烈創業垂統の
 聖跡も亦も更あり



歴代の名実を承継統れ政績然りしむる所
 ありといへども抑亦名臣良弼お繼て輔翼裁成の
 効よこれ里爰に於て雜書と涉獵し六藝元尊の
 始に近き寛政年万玉まで名相循吏の言行
 と摘抄し分載臚列し名を流芳録といふ蓋選
 芳餘烈千載の下仰景以履きの義を取まり

一 今此書を輯むる意実上官箴にあり故に役名を
排列し職中此言の右途の事実と關係するもの
而已と抄載すよそ一人一して幾條も出するも
其居家の事や其のよ至ては皆省去して採らす
是後其軌範の第一より採用せらるる厚きかとの
漸きあり

一 凡事實固して紀する事ありあるもの一格を低
して其より歴を抄載す

一 凡二部を引用するもの二部を参考折衷して
採録せしあり法書よ其見立と之とも事実同し
きもの必しも數部を引用せし

一 凡各名の下その人の小傳を舉當役拜罷轉遷に
年月及び俸祿の數等と略載し讀者の便説よ
備ふされと涉獵の序係採録する所にして其際
誤極る多しを極く又其と開しも鮮かからす且
執考れめきは大抵終り此別歴と奉と之とも
其餘の諸君の當役扣除の事あり誦に於て詳し
記せし他及よ轉する後あり實に略せし煩
過んとすなり故あり又小史の如きは記載先
採録するよそ一をし讀者を怨せよ

一 凡此書を編抄するもとり偷閑の餘り隨て
隨て抄取する事実の物も其を採抄せし

脱洒造編者爲續編の採録に入んと欲す
一 法及此序次大低支職の序次は従ふと以ても錯
次多かる處し昔所及種々ありても二三條と
ゆゑに是を又括去すべきありは故に未だ採録す

天保七年十一月

因山温恭識

流芳録引用書目

寛永譜

藩翰譜

藩翰譜續編

御遺訓附録

治世界記

明君享保録

明君德行録

寛明日記

元延實録

年録

板倉政要記

大久保家記別集

宝永直孝家傳

中野圓心覺書

酒井空印言行錄

信綱言行錄

信綱記

梶定良畧記

重矩常行記

柳澤秘記

大岡政要錄

隱秘錄

松波正春錄

遠相實錄

白川傳信錄

天明記

君臣言行錄

明良洪範

續明良洪範

改正太平秘記

七めり子

故諺記

故諺記附録

落穂集

参考落穂集

天野遺語

折々芝の記

白石伸書

鳩巢小説

兼山麗澤秘策

蚤の焼藻

聞見集

東武實談

翁物語

野翁物語

南山聞書

續武藏鏡

寛元聞書

常山紀談

新著聞集

兵家茶話

時代記

雜話燭談

備陽武義雜談

榎本氏覺書

雨雪の友

別本詞林金玉集

名将名言記

雨夜燈

窓北書依兄

窓の書依兄追加

葛藤別紙

續功物語

正事記

謙亭筆記

得川武顯録

老談一言記

古老夜話

武功雜記

閑窓輪話

老士雜談拔書

老士雜談附録

老士語録

故老諸談

太平將士美談

及聞秘録

武林隱見錄

續編武林隱見錄

武家秘笈

子くまの

後編雜語筆記

太平秘覽

世說海談

武門諸說拾遺

士林禁秘錄

近代公實巖秘錄

當世珍說要秘錄

殿中頃日雜記

頃日文耕錄

巷說秘鑑

古井の埋子

和世說

雜語藻塩草拔書

及古撰

士談會稿

傳語拔書

諺芥集

官中要錄

異說區々

茶飲夜話集

掃聚雜語

武備目睫

世評書留

甲子夜話

石尾筆記

新見氏筆記

通計一百六部

流芳錄目次

卷之一

沖大老藏

井伊掃部頭直孝

保科肥後守正之

酒井雅樂頭忠清

堀田筑前守正俊

卷之二

沖老中

大久保相模守忠隣

中多佐渡守正信
中多上野女正純
酒井雅樂頭忠世
土井大炊頭利勝
安友對馬守重信
青山伯耆守忠俊
酒井讚岐守忠勝
稻葉丹後守正勝
堀田加賀守正盛

卷之三

沖老中

卷之四

沖老中

松平伊豆守信總
阿部豐後守忠秋
阿部對馬守重次
酒井雅樂頭忠清
久世大和守廣之
土屋但馬守教直
板倉内膳三重能
大久保加賀守忠朝
堀田備中守正俊

阿部豊後守三武

卷之五

沖老中

戸田山城守忠昌

土屋相模守政直

小笠原佐渡守長重

秋元但馬守喬朝

井上河内守三岑

阿部豊後守三春

久世大和守重之

安藤對馬守信友

松平右京大夫輝貞

松平左近將監兼邑

土波丹後守頼稔

西尾隠岐守忠尚

堀内相模守三亮

松平右近將監武元

卷之六

沖老中

松平越中守定信

松平伊豆守信明

卷之七

沖側用人

松平夷濃守吉保

松平右京大夫輝貞

間部越前守詮房

松平伊豆守信明

卷之八

京都所司代

板倉伊賀守勝重

板倉周防守重宗

卷之九

京都所司代

板倉内膳守重能

戸田越前守忠昌

土屋相摸守政直

松平因幡守信真

小笠原佐渡守長重

松平純伊守信庸

松平伊賀守忠周

土岐丹後守頼稔

松平和泉守宗完

大坂津城代

阿部備中守正次

酒井潜次守忠音
堀田相摸守三順

卷之十

若年寄

松平伊豆守信徳
阿波豊後守忠秋
酒井佐後守忠朝
稻葉石見守三休
秋元但馬守喬朝
米倉丹後守昌尹
水野大監物忠之

森川出羽守俊胤
中多渾守綱忠善

出奏者苗

松平佐前守正信
寺社奉行

井上河内守正利
阿波義作守正武
水野右衛門守忠春
戸田能登守忠美
中多渾守綱忠晴
黒田豊前守忠邦

大是越前守忠相

大坂市定番

板倉内膳正重矩

渡辺彼中守基徳

沖側元

久世大和守廣之

加納遠江守久周

平尾貞濃守頼長

駿府沖城代

松平丹後守重信

伏見奉行

建部内通頭政吉

久留信濃守通依

水田守辰

依田豊前守政次

大坂番頭

山口但馬守重政

田中主殿頭定政

忌部丹波守與賢

水野周防守忠増

板倉伊豫守重形

尾桐主膳正貞房

水野山城守忠英

水書院書頭

中根大隅守正成

安藤伊賀守重元

松平安房守信孝

水小姓組書頭

水野山城守忠英

高井兵部補守房

卷之十一

大目付

柳生但馬守宗能

井上筑後守政重

北條安房守氏長

彦坂壹波守重紹

横田備中守義松

松平封馬守忠卿

所奉行

渡邊大隅守總貞

甲斐庄飛騨守三親

水條安房守氏平或作氏廣

松平伊豆守忠廣

大目越前守忠相

松波筑後守正春

依田和泉守政次後改量
前守

土屋越前守正方

石河七佐守政武

柳生之膳正久通

坂部能登守廣高

村上肥後守新禮

比叻定奉行

伊丹播磨守康晴

神尾義枝守春英

一色周防守政汎後改安
藝守

卷之十二

京都町奉行

松前伊豆守甚廣

小濱志摩守久隆

向井伊賀守政暉

石河七佐守政武

池田筑後守長惠

大坂町奉行

曾我丹波守古祐

赤坂壹波守重銀

佐々孫濃守成念

松浦河内守正信

曲淵甲斐守景漸

松平石見守貴隆

仙洞附

高木信繁守吉久

山田奉行

大忌能登守忠相

日光奉行

股羽大和守保貞

奈良奉行

溝上豊前守正勝

堀奉行

水谷信濃守勝比

贄安飛守正壽

百人組之頭

近友登之助貞用

横田次郎兵衛述松

横田甚左衛門義松

火消役

横田甚左衛門義松

戸田内藏助光賢

近藤官内政徳

水小姓

松平長四郎信總

水野内膳三政勝

水伽

加藤虎之助則茂

大絶言孫水伽

水野中次郎忠徹

水先子頭

小栗又市政信

石谷十藏貞清

天野赤若馬長重

火附盜賊改和役

中山勘解由忠守

能勢惣一郎元之

平岩若枝守親庸

進森太郎成睦

向坂兵庫言政

長谷川平藏宣以

森山源五郎孝盛

卷之十三

水月付

宮城甚奮門和甫

仙波七郎左衛門通種

山川十兵衛貞幹

栗山源五郎孝盛

矢部彦五郎定會

市使番

駒井右京親昌

市書院番組頭

土屋大和守教正

市洗頭

石谷十藏貞清

小條新藏氏長

甲斐庄越前守三永

市小納戸

梶左兵衛佐定良

柳沢清太郎保明

依田平次郎政次

松平信俊頭忠香

谷庄右衛門衛貞

関東郡代

伊奈半左衛門忠達

伊奈振津守忠尊

後改右
近右監

西出番所勤番

中坊百五郎秀豊

卷之十四

小普清組頭

栗山源五郎孝盛

水妻門坊子番之頭

久松彦左衛門定住

大川番

水野甚五郎守要

水代官

小宮山本之進昌世

栗村友右衛門盛書

水細之頭

矢部四郎長清家譜作
七郎門定晴

水菴下頭

鈴木甚左衛門重成

有賀甚左衛門種親

小十人

青木久左衛門義精

水勘定

神谷武右衛門久敬

水医師

皇月三英君喜

水先子与力

依田佐舟

水沈

墨沈法在蒲



